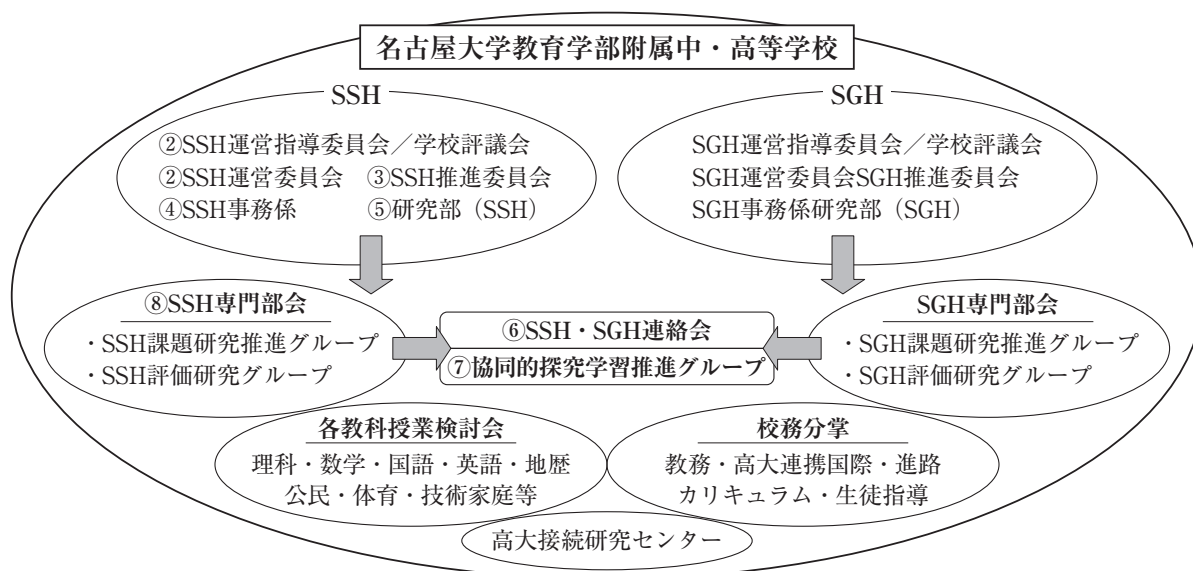


校内におけるSSHの組織的推進体制

三小田 博 昭

(1) SSH研究組織概念図



(2) 研究組織とその役割

①SSH運営指導委員会：研究開発に対して、専門的な見地から指導・助言を行う。科学人材育成や評価、地域の教育に関わる大学教員、非営利団体職員、学校関係者等、幅広い分野のメンバーで構成されるため、多角的視野からSSH全体を捉えることができる。

②SSH運営委員会：校長（1）、副校長（2）、教頭（2）の5名からなるSSH管理職体制は運営委員会制度をとる。名古屋大学をはじめ、各連携関連機関との連絡調整機能の中心的役割を果たしながら、附属学校SSH研究開発の全般的な運営を主導する。

③SSH推進委員会：研究主任（1）、理科代表（1）、数学科代表（1）とSSH運営委員会（5）で構成。時間割にSSH推進委員会が組み込まれ、毎週定期開催するなど全校的なサポート体制がある。SSH研究開発推進の中核。運営指導委員会の企画・立案・開催を行う。

④附属学校SSH事務係：校内にSSH補助事務員を雇用し、研究開発に関わる会計処理を行う。学外講師の依頼や講演会等の準備も附属学校教員と協力して行う。

⑤研究部：研究主任を中心に理系・文系教員のバランスを考慮して管理職から任命された6名で構成。SSH推進委員会で方向付けた研究開発を具体的に検討する部会。

全国から多くの教育関係者が集まるSSH研究協議会の企画・立案・開催実施の中心となる。

⑥SSH・SGH連絡会：SSH推進委員会とSGH推進委員会のメンバーで構成。SSH・SGHの運営・評価・調整を行う。学校全体の研究開発を考えるコアの協議会。

⑦協同的探究学習推進グループ：SS課題研究を含む、全教科で行う協同的探究学習の企画・調整・推進を行うSSH専門部会の1つ。評価部会と連携しSSH評価にも関わる。

⑧SSH専門部会：全教員が関わるSSH専門部会（SSH課題研究推進グループ、協同的探究学習推進グループ、評価研究グループ）である。カリキュラム開発実行の中心組織であり最も重要な部会の一つである。月2回開催の校内研究委員会の中で部会を行う。

学校長を中心としたSSH運営委員会が研究開発の中心となり、研究の方向性と学内体制に対して責任を負う。実質的な企画はSSH推進委員会が行い、教員全体制の研究グループが具体的な業務を行う。SSHとSGHでは、所属教員が異なるため無理なくSSH・SGHの研究開発を行うことができる。SSHとSGHは、定期的に行われる連絡会で意思疎通を行い、学校全体としての研究調整と整合性をはかる。